岐阜新聞真学塾

出題　螢雪ゼミナール　大垣駅前校・築樋拓真

【国語】

今回は早口言葉に挑戦してみましょう。

（1）生麦、生米、生卵
（なまむぎ、なまごめ、なまたまご）

（2）赤巻紙、青巻紙、黄巻紙
（あかまきがみ、あおまきがみ、きまきがみ）

（3）瓜売り（うりうり）が瓜売りにきて瓜売り残し瓜売り帰る瓜売りの声

（4）蛙（かえる）ぴょこぴょこ三（み）ぴょこぴょこ合わせてぴょこぴょこ六（む）ぴょこぴょこ

問題：下の漢字も早口言葉です。読み方を答えましょう。

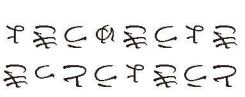
東京特許許可局長今日急遽休暇許可拒否

豆知識 雑学コラム　早口言葉は発音が鍵

今日のテーマは早口言葉です。難なくできた方もいれば、ゆっくりでも言うのが苦手という方も多いと思います。早口言葉をうまく言うコツの一つに、日本語の発音を意識することがあります。では、日本語を話すときの発音とはどのようなものでしょうか。掘り下げていきましょう。

まず、日本語の発音の特徴を知るために英語と発音を比較してみましょう。日本語で「ストロング」と発音するときの音をローマ字で書くと「sutorongu」と発音し、「ストロ」の部分ではそれぞれの子音（s、t、r）のあとにそれぞれ母音（u、o、o）の音がきます。一方、英語では「strong」の「str」の部分は子音だけで母音（u、o、o）の音がありません。このように英語と比べると日本語の発音は子音の後に母音が入ることが特徴だということが言えます。実際に日本人が英語の発音で苦手な部分として、「strong」の「str」の部分を「sutoro」と母音を入れて発音してしまうことが挙げられます。一方で、早口言葉が苦手な人はこの　子音の後の母音を無意識のうちにおざなりにしている傾向が考えられます。

では、どうやったら「子音の後の母音」をしっかり発音することができるのでしょうか。そのためには、母音（アイウエオ）を意識する練習をしましょう。最初は、母音「あえいうえおあお」と正しい口の開き方で母音を発声する練習をしましょう。つぎに「ありがとうございます」を「あいあおうおあいあう」のようにいろいろな言葉を子音なしの母音だけで発声する練習をして、最後に子音をつけて「ありがとうございます」と言ってみましょう。実際にやってみると口が滑らかに動く感覚が実感できると思います。

人前で話すうえで重要なことというと、話の内容や進め方が大切だとは思うものの発音まではなかなか気が回らないものです。しかし、実際に人前で話す仕事であるアナウンサーは、ニュースについての情報集めと同じように、日ごろから早口言葉をして聞きやすい発声を習得しています。重要な発表などの前には早口言葉を練習して聞きやすい発声も心掛けたいものですね。

【解答】